

富山県消費者協会の「エシカル消費」推進の取組み

○消費生活研究グループの日常活動における取組み ～身近なエコライフの普及啓発～



<古着等を活用したリフォーム>



<マイバッグの作成普及
—古傘のリサイクル—
～若い人や男性にも利用しやすいよう、小ぶりのものも～



<割箸を回収、EMぼかし菌で洗浄し、紙の原料としてリサイクル>

○食品ロス削減の取組み



<サルベージパーティーへの参加（2017年12月）>



<エコクッキング研修会（2018年12月）>



<食品ロス削減に関する事業者との意見交換会>

○エシカル消費の普及啓発



＜多様な主体による連携強化・発展型の消費者教育強化事業＞
地域での見守り活動推進実行委員会が、富山市蜷川小学校で
開催したエシカル消費の学習会（2019年11月）



＜エシカル消費の推進に関する事業者との意見交換会＞
2019年2月

○アンケート調査と調査結果を踏まえた実践活動

エシカル消費につながるアンケート調査を実施し、分析結果を踏まえて、提言や実践活動につなげています。

富山県消費者協会 消費生活等に関するアンケート調査

年度	テーマ例(環境問題がテーマのもの)
1998	詰め替え用商品に関する消費者の意識及び利用状況
1999	エコマーク・グリーンマーク商品の使用状況
2005	“地球温暖化”省エネルギー
2006	循環型社会 ― 買い物袋を考える
2007	していますか！環境にやさしいエコドライブ！
2008	していますか！家庭用電気商品の省エネ化！
2009	していますか！食品廃棄物の減量化！
2010	大切にしていますか！生活用水！
2012	していますか！防災・節電対策！
2016	環境にやさしいこと、環境に良いことしていますか！
2017	食品ロスを減らしましょう！
2018	新しいモノサシ、エシカル消費！
2019	プラスチックごみ問題ってなんだろう！



※調査結果は冊子に
まとめて公表、
またHPIに掲載

* 食品ロス削減

2017年度調査 食品ロスを減らしましょう！

～食品ロスを、食料問題にとどまらず、地球の環境や貧困問題としてとらえ、
取り組めることから始めましょう！～

調査目的

食品ロスとは「食べられるのに廃棄される食品」のことです。日本では年間約2,775万トンの食品が廃棄されており、そのうち食品ロスは621万トンで、その約半分(282万トン)が一般家庭からのものです。このアンケートは、食品ロスに関する消費者の意識や行動を調査して、今後の効果的・具体的な取り組みを検討するために行いました。

調査時期

2017年6月下旬～7月下旬

調査対象

配布2,189人、回答者1,920人【回収率87.7%】

性別

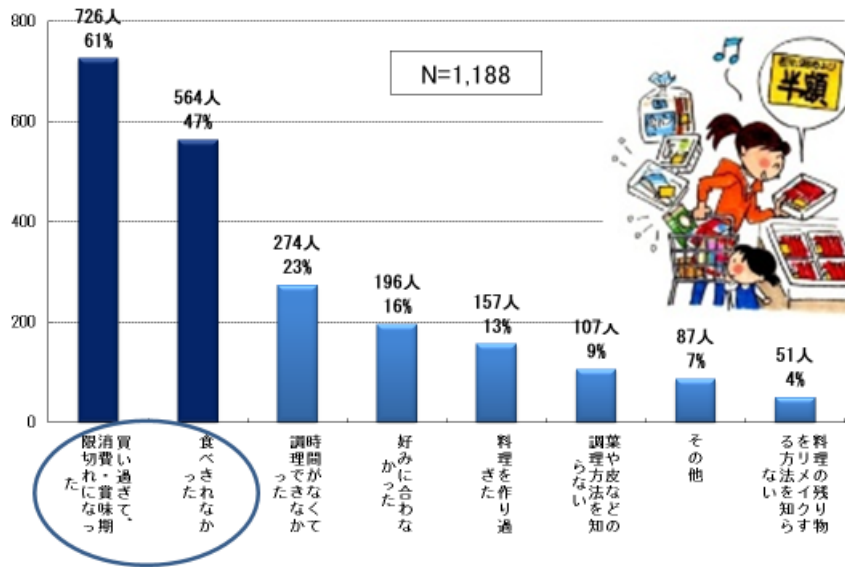
男性684人(36%)、女性1,213人(63%)、無回答23人(1%)

年代

20歳未満 436人 23%	20代 343人 18%	30代 163人 8%	40代 258人 13%	50代 265人 14%	60代 241人 13%	70歳以上 199人 10%	無回答 15人 1%
-------------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-------------------	---------------

● 食品の廃棄の実態について

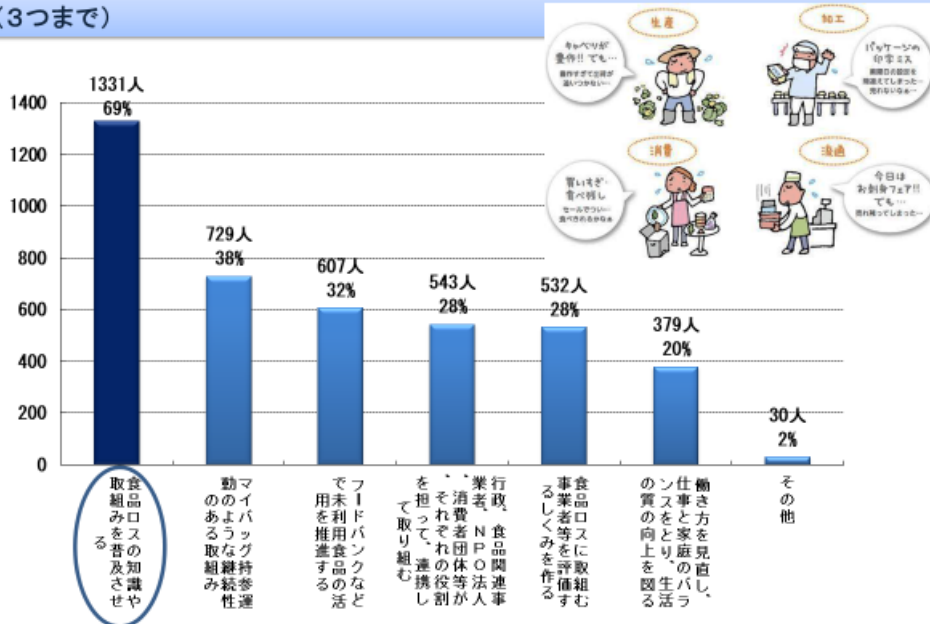
「捨ててしまうことがある」と答えられた場合、
食品を捨てる理由は何ですか。(いくつでも)



⇒つい、買い過ぎてしまうのですね。

● 効果的な取組み等について

食品ロスを減らすために、社会全体でどのような取組みが必要だと思いますか
(3つまで)



⇒まず、実態を知ることですね。

調査結果を踏まえた協会としての取組み

食品ロス削減を進めていくためには、
消費者、事業者、行政等がそれぞれの立場から行動し、
連携して持続的に取り組むことが重要です。

○家庭では、家族全体が協力して、冷蔵庫内の確認などにより
買い過ぎない、買った食品は「使い切る」工夫、「食べ切る」行動
が大切です。

⇒ 消費生活研究グループの研修や、くらしのアドバイザーによ
る啓発講座の機会などを活用して、普及啓発に努めます。

○小売店等に対しては、使い切れる量の販売、消費期限等の近
い食品を買いやすくする工夫などを要望してまいります。

○行政に対しては、正確な知識の普及、幼少期からの食育の
推進などを要望してまいります。

2017年度調査報告書より

* エシカル消費

2018年度調査

新しいモノサシ、エシカル消費！

～私たちの消費には、社会を変える力がある！～

調査目的

エシカル消費(倫理的消費)とは、より良い社会に向けて、人や社会、環境に
配慮した消費行動をいいます。
具体的には、障害者支援につながる商品の購入、フェアトレード商品や寄付
付き商品の購入、エコ商品、リサイクル商品、環境保護等に関する認証マーク
がある商品の購入、地産地消、被災地産品の応援消費などです。
日常の買い物で、「安全」や「価格」と同じように、「人を傷つけていないか」「地
球に負担をかけていないか」といった新しいモノサシを加えてみましょう。

調査時期

2018年6月下旬～7月下旬

調査対象

配布1,897人、回答者1,688人【回収率89.0%】

性別

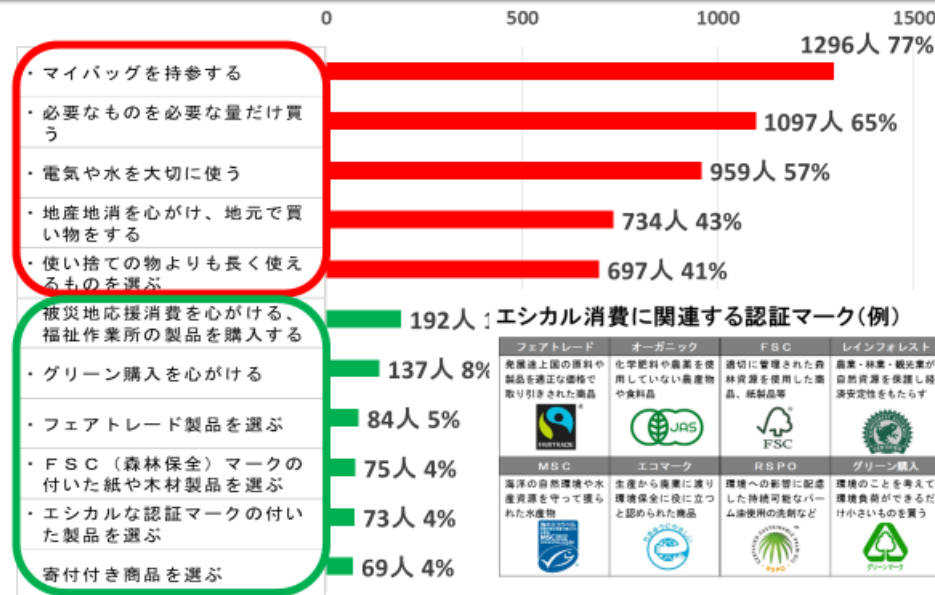
男性588人(35%)、女性1,077人(64%)、無回答23人(1%)

年代

20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
231人 14%	269人 16%	121人 7%	275人 16%	275人 16%	281人 17%	218人 13%	18人 1%

● 日常の消費行動について

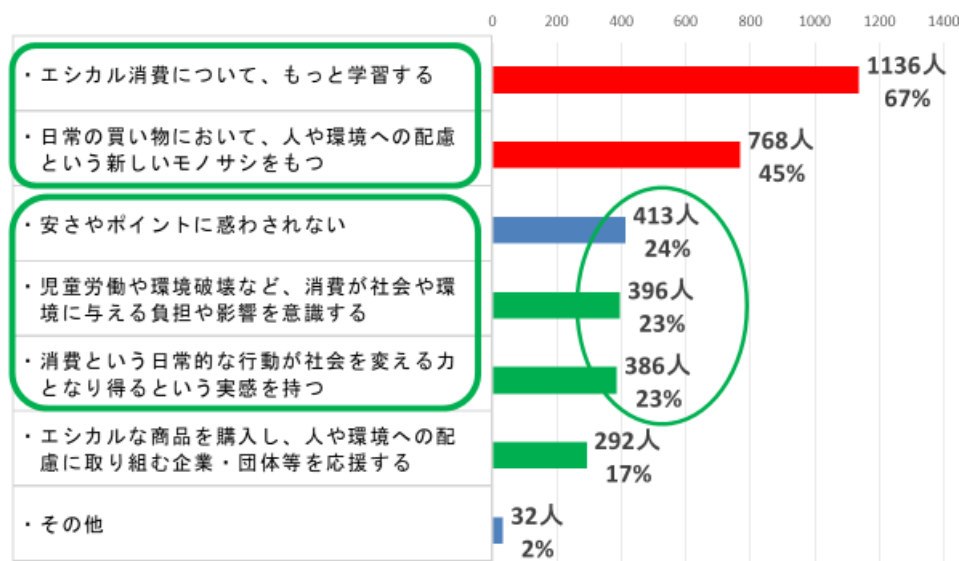
問1 あなたの日常の消費行動について、あてはまるものはどれですか。 P2
(いくつでも)



⇒マイバッグ持参など心がけている人は多いが、被災地応援消費などは、これからですね。

● これからの消費行動について

問12 今後、「エシカル消費」が広まっていくために、消費者はどう変わっていけば良いと思いますか。(3つまで)

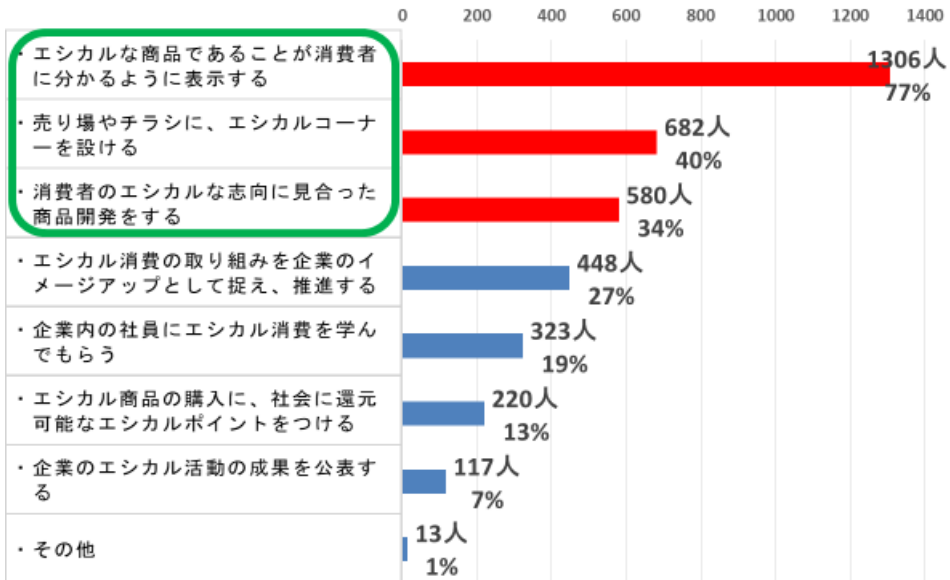


⇒やはり、学習し、意識を変えていくことが大切です。

● これからの消費行動について

問13 今後、「エシカル消費」が広まっていくために、
あなたが企業に望むことは何ですか。(3つまで)

P6

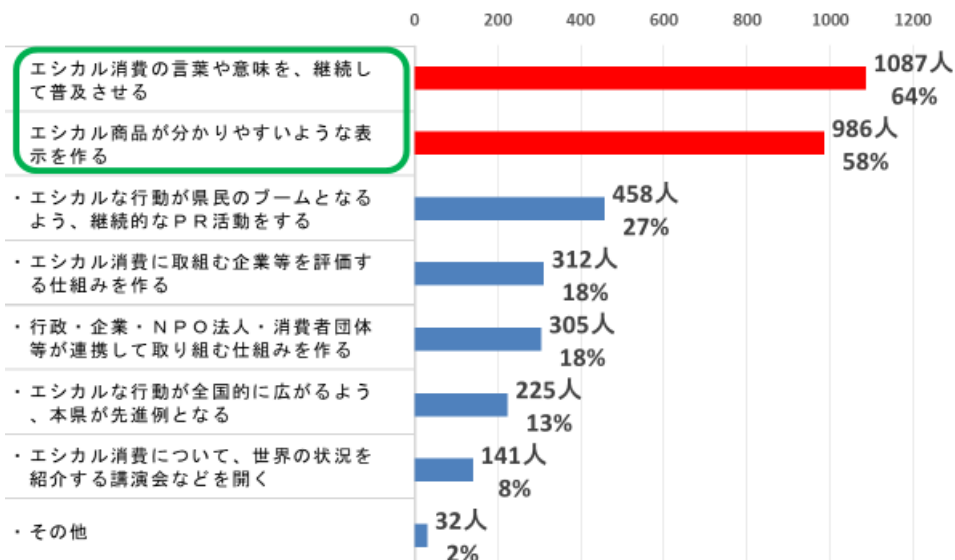


⇒分かりやすい表示を望む声が多いです。

● これからの消費行動について

問14 今後、「エシカル消費」が広まっていくために、
あなたが行政に望むことは何ですか。(3つまで)

P6



⇒行政には、継続的な普及啓発活動を望む声が多いです。

調査結果を踏まえた協会としての取組み

「エシカル消費」の普及啓発のためには、
消費者自らが行動を起こすとともに、企業や行政がそれぞれの立場から連携協力して行動することが重要です。

- 消費者は、日頃の買い物の際に、価格、品質という従来のモノサシのほかに、その商品の背景を思いやり、人や環境にやさしいかといった新しいモノサシを持つように心がけることが大切です。
- 企業に対しては、価格などを含めて消費者に受け入れられるようなエシカルな商品開発や、分かりやすい表示を、要望してまいります。
- 行政に対しては、各世代に向けた継続的な啓発普及や、エシカル商品に関する統一的な分かりやすい表示の作成などを要望してまいります。

2018年度調査報告書より

* プラスチックごみ問題

プラスチックごみ問題ってなんだろう！
～消費者ができる**プラスチックごみ削減**の取組み～

令和元年10月 富山県消費者協会
富山県消費生活研究グループ連絡協議会

調査目的

私たちの生活は様々なプラスチック製品に支えられていますが、一方で**プラスチックごみ**は深刻な社会問題となっています。捨てられたプラスチックごみが海へ流され、**マイクロプラスチック**となって、それを魚介類が食べることで**食物連鎖**に取り込まれ、**人体や生態系への影響**が懸念されています。さらにプラスチックごみの増加によりリサイクルや焼却・埋め立て処理が追いついていないことも課題となっています。
プラスチックごみの**発生を抑制**するため、消費者としての私たちに何ができるか考えてみましょう！

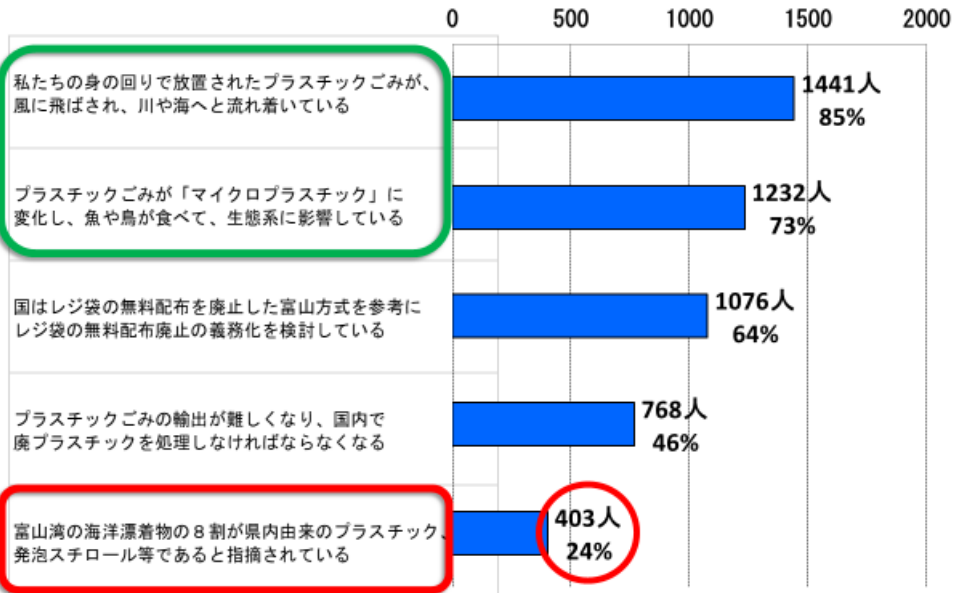
調査時期・方法

令和元年6月下旬～7月下旬・紙面調査法（自記入式）

I プラスチックについて

P 2

問2 プラスチックによる環境汚染に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

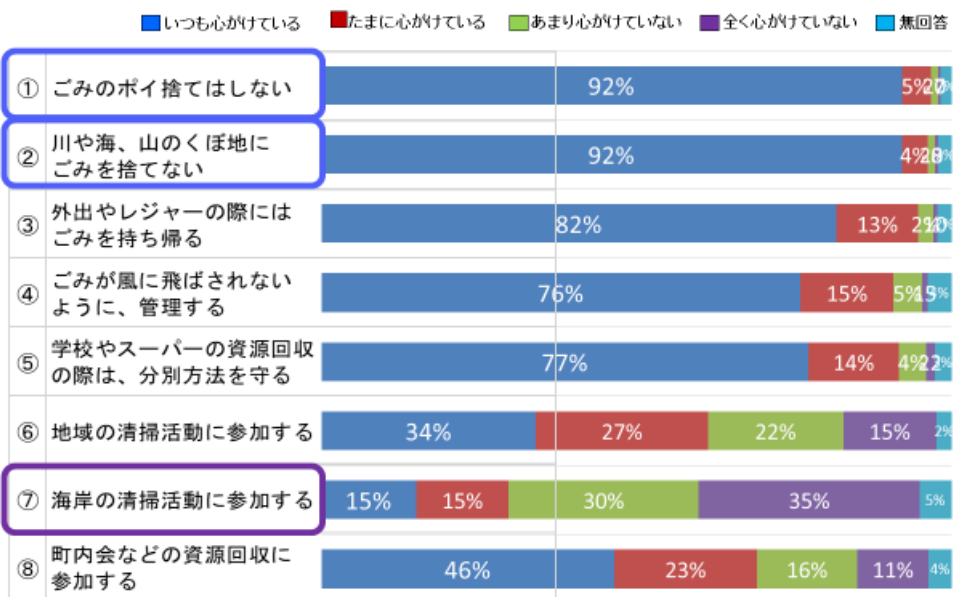


⇒富山湾の海洋漂流物が県内由来のものとして認識している人が少ないです。

II プラスチックと容器包装の扱いについて

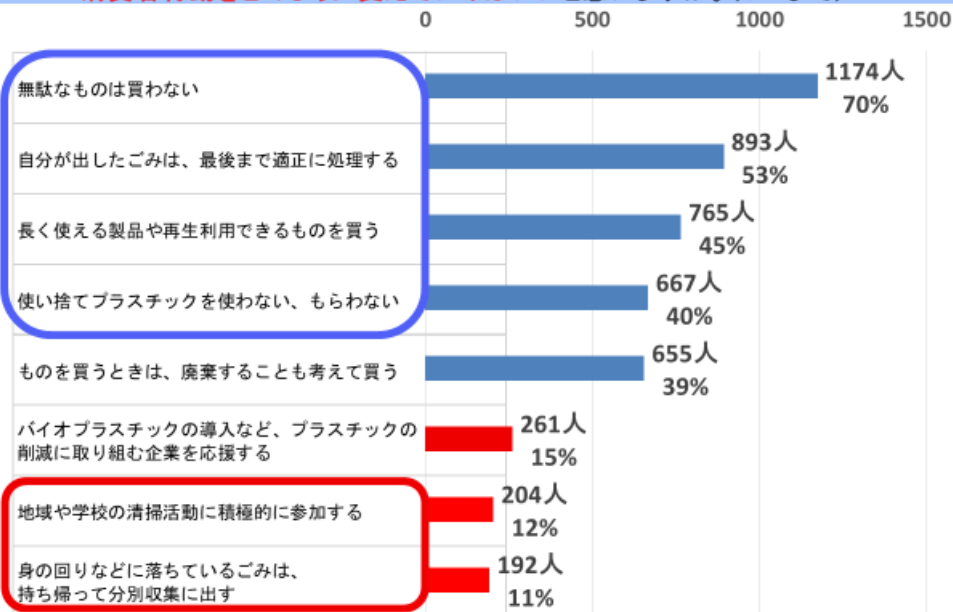
P 4

問6 日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていることは何ですか。



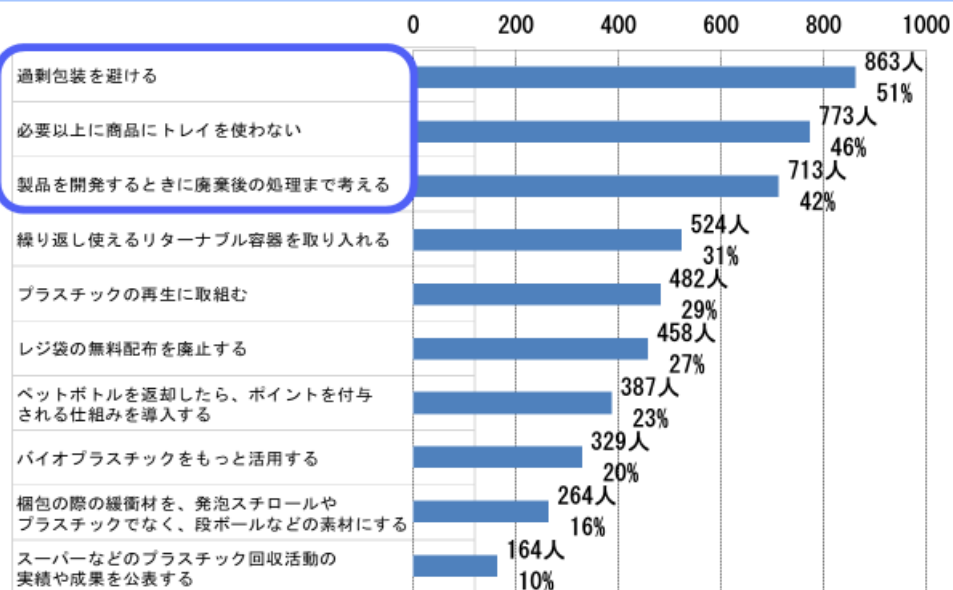
⇒海岸清掃活動は、これからです。

問7 今後、プラスチックごみの削減のために、
消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。(3つまで)



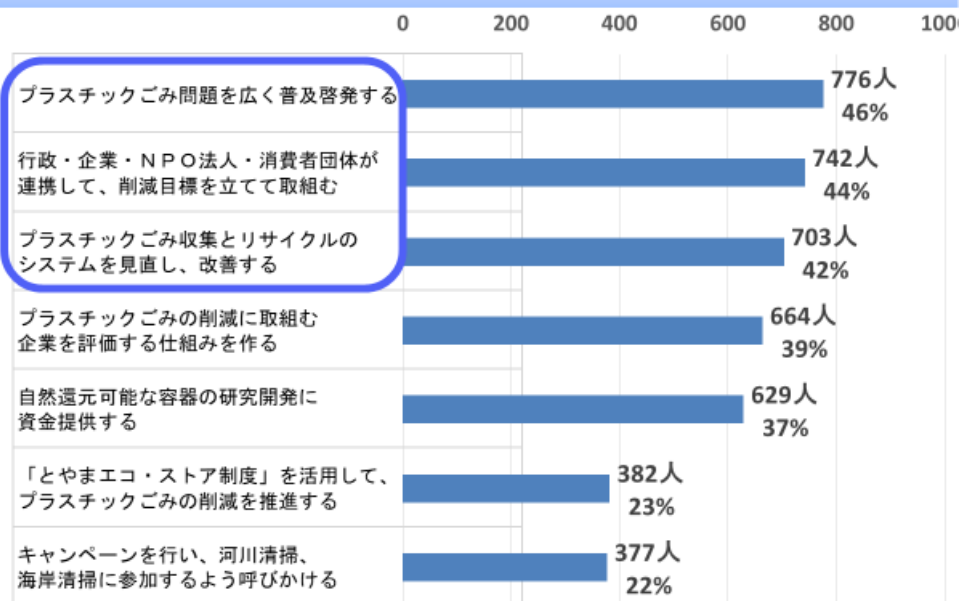
⇒使い捨てプラスチックを使わない、もらわないことも大切です。

問8 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。(3つまで)



⇒消費者と事業者が協働して取り組むことが大切です。

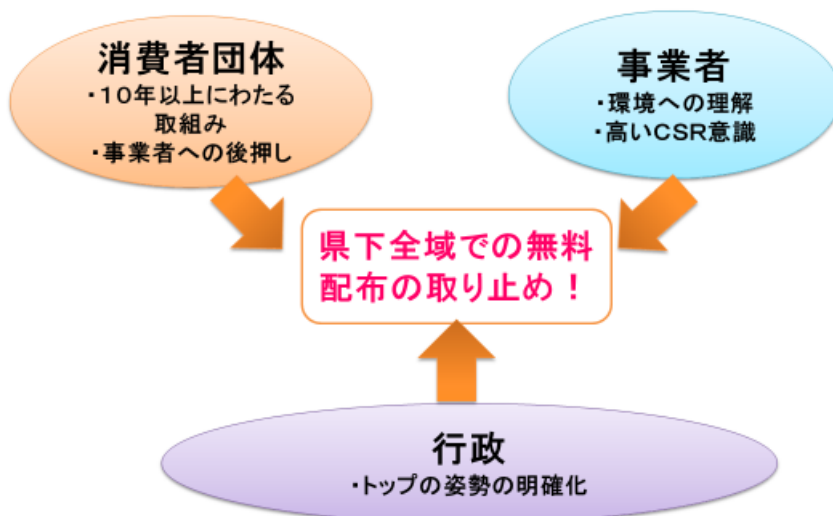
問9 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。(3つまで)



⇒やはり、行政には、継続的な啓発普及を望む声が多いです。

*平成20年4月に、レジ袋無料配布廃止を全国に先駆けて実現できた要因は、消費者、事業者、行政が連携協力できたからです。エシカル消費の推進についても、三者のパートナーシップが大切です。

SDGsの取組みを推進するために
～富山県レジ袋無料配布廃止の実現の要因～



持続可能な社会の形成に向けて

社会を構成する
一人ひとりの
消費者



消費者市民
社会

生活から、環境保全・持続可能な社会
を考える消費者へ

- 環境や社会に配慮した商品購入
- ライフスタイルを見直し、出来ることを考える

このための、

各世代に向けた消費者教育の
学習機会の提供

